

# 慈眼

## 第5号

発行所  
小城郡三日月町三ヶ島  
妙勝寺内  
TEL 0952-73-2981  
FAX 0952-73-2981

日蓮宗佐賀  
教化センター

発行責任者  
林 孝 隆

印刷所 中野印刷所

### 「大荒行堂の一百日」

元全国修法審議委員  
元佐賀修法師会々長

大和町 親正寺住職  
宝蔵寺 学 淳



数年来続いた暖冬が本年は一転して厳しい冬の到来となりました。

本年度の大荒行堂は全国より一六三名(県内は七名)の行僧が十一月二日より千葉県中山法華経寺内にあります日蓮宗加行所(かぎょうじょ)に入行して一百日間の苦修(くしゅう)練行(れんぎょう)の毎日を重ねております。

全行僧は一百日の間、行者擁護(おうご)の鬼子母尊神(きしぼくしん)と正伝師(せいでんし)に身命(みんが)を預け、私心(ひしん)なく

早朝三時の水行に始まり夜十一時の一七回に亘る冠水(かんすい)に六根を清め、荒行堂中央部に位置する内堂(ないどう)(鬼子母尊神をお祀りしているお堂)に籠(こも)って、法華経本門の正宗分(しやうしゆぶん)たる如来寿命品(にがたうじん)を中心として読経三昧(よみざまい)の苦行を行います。

三十五日間のこの様な自行にて六根清浄の法体となった行僧は自行成満の日を迎えます。

十二月六日より化他行(けたぎやう)に入ります。五行僧を始めとして各行僧への祈禱秘伝の相伝書伝達式(さうでんしやうだんたしき)が各々行なわれます。初行僧の読経当番僧(よみぎやうたんばんぎやう)が数名づつ午前三時より午後十一時までに至る内堂での読経は絶える事はありません。もちろん午前四時の朝勤・日中経・午後七時の夜勤には全行僧が、正伝師導師の下、水行でカレた声をふりしぼり満堂をゆるがす読経の声は成満の日まで響き渡ります。

初行にとって一番大事な書写行が行なわれます。この書写は成満の時、行僧が胸に戴く撰法華経(せんぽうけきやう)です。金欄(きんらん)の撰経袋の中には一百日間の荒行が集約された広大

無辺の経力と、衆生を救う仏様の大慈悲心が込められています。日蓮大聖人が法華経全品の中より撰述された経文で、末法に法華経を弘通(くわうつう)する者、即ちお題目を唱えて「我れ日本の柱とならん、眼目とならん。大船とならん」と誓われた本化上行の弟子としての証しであります。その間読経の声は絶える事なく、感激の中で書写の筆はすすみます。書写が終了しますと木剣相承(ぼくけんそうじやう)が寒風の中で行なわれます。

五十日間が過ぎますと再行以上の各行僧への相伝と、檀信徒との面会が許され外堂(がいどう)(一般の檀信徒が入れるお堂)での法楽加持(ほつらくかじ)も行なわれます。再行僧は弊束相承(へいそくそうじやう)を受け五十日祭が行なわれ、参行僧は大黒相承(おおくろそうじやう)を受け甲子日(かのえのひ)の深夜子の刻に大黒祭が行なわれ、再々行は水神祭として木火土金水の五行、即ち天地宇宙の秘法が相伝され、五百日加行の五行僧には本尊相伝という大聖人開頭の十界互具未曾有大曼荼羅御本尊の相伝があります。

二月十日早暁、全行僧は一百日間閉じられていた瑞門(すいもん)より出行し、出迎えの数千の檀信徒に祝福のお題目で迎えられ、長かった荒行に堪え抜いた行僧の顔が朝日に輝やき、新たな布教を誓います。

### きやくつごころ

(かいつぶり)

「修行」というと昨今では変なイメージが頭をよぎります。本来の修行とは仏法に従って善事(ぜんじ)を行うこと、つまりお釈迦様の教えに従って善根功徳(ぜんこんくどく)を積み、私達が仏に成る努力、行を修める事なのです。

この「修行」の方法としては色々な行がありますが、その根本は日蓮大聖人がお唱えになった南無妙法蓮華経を口に唱え、心に持ち、身で実行する事です。身や心を水行や読誦・唱題によって鍛錬(たんれん)し、仏様の智慧を私達の身近に観じて自分だけの幸福でなく、他の人々の幸福をも願う事が大切なのです。



# 【特集】

## 《日蓮宗の修行》

「僧侶」「お坊さん」「お上人」と様々な呼び方がありますが日蓮宗の「お上人」になる為にはどの様な段階を踏み、どんな修行があるのかを特集致しました。

### 《はじめに》

お上人になる為にはまず、仏様の教えを求める強盛な信仰心がなくてはなりません。その上で、日蓮宗の教師の弟子になること。そして数年間基礎的な学問と修行を積み「得度」をします。

次に宗門に得度届を提出、承認されると「度牒」という証明書が交付されます。この段階のお坊さんを「沙弥」といいます。その後も寺院で随身をしたり、宗立の寮等で修行を続け、入場考査を受けて合格すると始めて「信行道場」への入場資格が与えられます。

総本山身延山での三十五日間の信行道場を終了すると僧階が授与され、「日蓮宗の僧侶」つまり「お上人」になることが出来るのです。

これから、今まで述べた信行道場までの修行と、その後の修行について概略を説明してまいります。

### 《僧風林》 《沙弥校》

将来日蓮宗の僧侶となる学童の教育機関のことで、日蓮宗の初代管長である新居日薩が開いたのが初めとされます。当初は沙弥校と称していましたが、後に僧風林と改称されました。現在では夏休み

に全国各地で約一週間程開かれています。

### 《得度・度牒》

得度とは元来、救うことの出来るという意味で度牒とは、迷いの世界から悟りの世界に渡るといふ意味を持っていました。それが転じて、出家し僧となること仏門に入る事等と現在では用いられています。出家して得度届が受理されると千葉県小湊の清澄寺に於いて宗務総長より度牒の交付を受けます。

### 《信行道場》

この修行においては

- ①心を込めて日蓮大聖人に給仕をする。
  - ②教学を守り正しい所作を行う。
  - ③学道に励む
- の三つを基本として布教や法要の修練と仏教学の研修など厳しい教育が行われます。日蓮宗の僧侶となる為には必ずここで修行をしなければなりません。

### 《布教研修所》

時代に即応した布教をする為の布教師養成機関で、主に青年僧を対象としています。高座説教の他、街頭布教、行脚等様々な布教活動について学びます。現在は千葉県市川市にある真間山弘法寺で、六月一日から半年間開設されています。

### 《布教院》

布教に必要な行儀技術を体得錬磨するための機関ですが、法話特に本宗独特の高座説教に重点を置いています。年一回二週間開設され、五回以上受講した者でないと卒業試験を受けることができません。

### 《声明師養成講習所》

日蓮宗の定める法要式の精通、声明の錬磨と全教師に対する普及と徹底を目的とした声明師を養成する機関の事です。現在は年に一回一週間の期間を定め開設されています。

### 《加行所》

千葉県市川市の中山法華経寺内にある修行堂の事です。毎年十一月一日から二月十日迄の厳寒期に百日間開設され、飢え、寒さ、睡眠不足の中、伝師より祈禱秘伝の極意が伝授されます。本宗の加持祈禱は加行所を修了した者でなければ行うことが出来ません。

### 《まとめ》

以上簡単ですが「日蓮宗の修行」について述べさせて頂きました。この様に一人前の僧侶となつてからも、更に行学二道に精進努力していくことに変わりはありません。

武雄温泉へお越の節は  
お立寄りお待ちいたしております。

お土産の  
**大 陽**

武雄市武雄町松原三丁目  
0952(23)3958

創業 100 年

辻の堂の仏だんや

(株) **本庄仏具総本店**

佐賀市堀川町 (辻の堂)  
☎ 0952 - 23 - 2955 (代)

「荒行の始まり」

日蓮宗の荒行は、世界三代荒行の一つに数えられ大変厳しい修行といわれる事は皆様よく御存じの事と思えます。

そもそもこの荒行の始まりといえますのは、今からおおよそ七百年前にさかのぼります。

日蓮大聖人が御入滅される際に、弟子の日像上人という方に京都弘通を委嘱されました。この日像上人は大変厳格な性格の持ち主で、自分に非常に厳しいお方でしたので、日蓮大聖人から直々に京都弘通を命じられた事を重く受け止められました。そこで日像上人は大聖人の遺命を身をもって実行する為、永仁元年（一二九三）二十五才の時、京都弘通の成就を願い、石の心身を鍛錬なさろうと、冬十月二十六日（現行歴では十一月に当ります）鎌倉にある由井ヶ浜の浜辺にて、毎夜百ヶ日の間、寒風に身をさらしながら時には身を海に投げ出して心身を清め、一晩に百巻の「自我偈」を誦して、翌年の二月まで修行なされました。このことが日蓮宗荒行の始まりとされています。

今現在では千葉縣市川市に在る大本山法華教寺の内に「日蓮宗加行所」として毎年開設され、古来からの伝統を守りつつ厳しい修行が十一月一日より翌年の二月十日の満行まで百日間行なわれています。



「大荒行堂の日課」

大荒行の修行をこの紙面の枠で全てを語ることは到底できませんが、今回はその一端を申したいと思います。

先づ起床ですが、午前三時からの水行を行う為に午前二時頃の起床となります。荒行は基本的に一日七回（午前三時・六時・九時・十二時・午後三時・六時・十一時）の水行と、読経で一日が明け暮れます。水行が終れば読経、読経が終れば水行という徹底した修行をする事で、自分の六根清浄・罪障消滅をめざします。食事は、朝夕の二回のみ、昼食はありません。お粥とみそ汁だけでこの百日間

を通す訳です。しかも食事の時間は僅かなお粥を飲みほすだけの短時間で、無駄な時を取りません。

つまり一日二時間余りの睡眠と二食の食事、日に七回の水行、延べ十八時間余に渡る読経三昧ですので、声は嘎れ、足は腫上り、身体は衰弱して意識はもうろうとして来ます。しかしこの様な過酷な状態にあっても何とか百日間の修行が全うできるのは自からの修行しようとする気持、いや鬼子母尊神、諸天善神の御加護に他ありません。

荒行も五十日間が過ぎますと檀信徒との面会が許される訳ですが、直接手を触る事はできません。面会に訪れた方々に法薬加持を行ないますが、水行・読経で清められた行僧の御祈禱には計り知れない迫力と感動を受ける事と思います。

日蓮宗の荒行は日本仏教の中で一番厳しい修行です。その訳はお釈迦様の真実の教えである法華経、そして日蓮大聖人がお唱えになられたお題目を弘めんが為に法華経の行者に求められた厳しさがそこにあるからです。



創業明治22年

旅館

あけぼの

佐賀市中ノ小路3-10 ☎ (0952) 24-8181



手を合わせることを大切に・・・

山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 ☎ (0952) 23-4308  
〒840

- ・寺院用具一式
- ・前卓
- ・筋金物
- ・宮殿
- ・登高座
- ・修復
- ・須弥壇
- ・経壇
- ・仏壇
- ・人天蓋
- ・美術彫刻品
- ・仏像彫刻
- ・鐘
- ・宗教絵画
- ・神殿用具
- ・仏像彫刻
- ・塗物
- ・其の他

# 寺院紹介 (五)

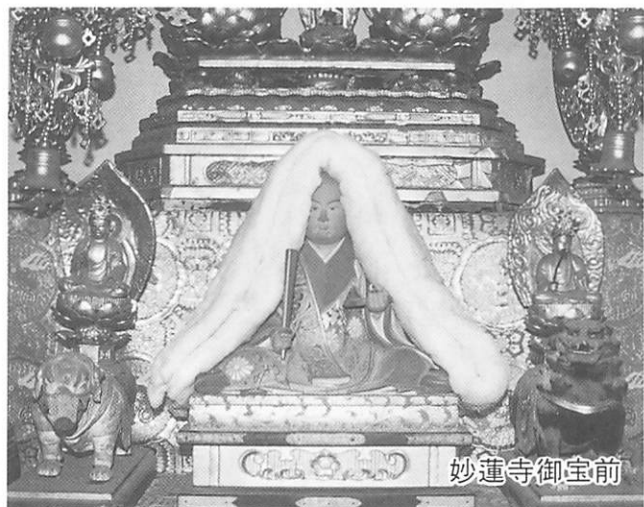
## 《片岡山 妙蓮寺》

佐賀平野の広がる牛津町の小高い山すそに位置し、肥前山口駅より東へ約二キロの所にあります。

### 【歴史】

妙蓮寺は、今から約四七十年ほど前の大永年間に、開山日念上人によって建立されました。

又、小城の深川の勝妙寺の末寺であり親師法縁と言われています。



妙蓮寺御宝前

### 【本堂】

創建から現在に至るまでに伽藍は数回建て替えられています。

現在のものは、明治四十年(一九〇七)に建立されたものであるが、昭和二四年(一九四九)の台風豪雨による裏山の崖くずれで倒壊したため、翌年二五年に復興再建されました。

本尊観音様式は、一塔兩尊四士、合掌印です。また、御祖像、文殊菩薩、普賢菩薩の裏には「右三身者新佛造立也、貞享五曆中秋中旬、京寺町下御霊前、大佛師左京作之」として刻されており、これらの像は貞享五年(一六八八)に造立されたものです。

### 【山主】

妙蓮寺の御住職である江頭泰励上人は、県内御住職の中でも、高齢(九十二才)にもかかわらず今なお現役で、ご法務をこなされています。住職歴も、六十五年になり、県内の重鎮の上人であります。



江頭泰励住職



妙蓮寺全景

平成七年度、日蓮宗大荒行を成満される県内のお上人さまの帰山式日程は次の通りです。

- 二月十六日(金) 等覚寺修徒 第再行小寺成文上人
- 十七日(土) 妙誓寺修徒 第再行古賀敬紹上人
- 十八日(日) 國相寺修徒 第再々行松島正英上人
- 十九日(月) 勝妙寺修徒 第初行松島正龍上人
- 二十日(火) 泰平寺修徒 第初行大平貫修上人
- 二十一日(水) 本長寺修徒 第参行辻雅英上人
- 二十二日(木) 妙玉寺修徒 第初行石井智康上人

拝む心で尊い品を ◆お仏壇、お仏具のご用命は

# 梅谷佛具店

仏壇・仏具・寺院用品・寺院納骨堂設計施工  
〒812 福岡市博多区奈良屋町3-21 TEL092-271-0456 (代表)

婚礼ふとん・インテリア

## 寝装の大塚

しやれたまきの

## 夏り華